ISSN 2758-0784

MUSEUM
THE KYOTO UNIVERSITY MUSEUM

Newsletter No. 64

September 2025

# 京都大学総合博物館ニュースレター



1988 年の第 9 次京都大学タイ植物探検隊でクラドン山にて採集し，1990 年に新種発表した *Ophiopogon kradungensis* の paratype（左）と 1989 年に新種発表した *Chlorophytum dolichocarpum* の holotype（右）。KYO に収蔵されているコレクション研究（8 ～ 9 頁）を参照

新館長のご挨拶 ..... 2
新任スタッフ ..... 3
特別展「吉田遺産探訪—遺跡・古図・剣鉾—」に寄せて ..... 4
大学博物館等協議会・日本博物科学会に参加して ..... 5
展示技術博覧会としての万博における「モード B 鑑賞」..... 6
３D ディスプレイ・デモ（子ども博物館）..... 7
総合博物館コレクション研究〈24〉..... 8
レクチャーシリーズ（第 165 回）..... 10
防災訓練を実施 ..... 10
来館者から提案された魚類の新和名が論文で採用 ..... 11
「吉田遺産探訪—遺跡・古図・剣鉾—」講演会 ..... 11
子ども博物館だより〈8〉..... 12
サントトマス大学との部局間学術交流協定 ..... 13
プリンスオブソンクラー大学との大学間学術交流協定 ..... 13
国立台湾大学博物館群人類学博物館からの訪問 ..... 13
研究資源アーカイブ通信〈33〉..... 14
総合博物館日誌（2025 年 3 ～ 6 月）..... 16

# 新館長のご挨拶

令和７年４月より総合博物館研究部資料開発系の高井正成教授が新たな総合博物館長に就任しました。任期は令和９年３月までの２年間です。

令和７年４月１日から新館長になりました高井正成です。令和４年３月まで愛知県犬山市にあった京都大学霊長類研究所に勤務していたのですが，同年４月から霊長類研究所の解体に伴い京都大学総合博物館に配置換えになり，令和５年３月から勤務地が京都に変更になりました。ようやく博物館での勤務に慣れてきたところで，総合博物館の館長を引き受けることになりました。まだまだわからないことが多く，館内の教職員の皆さんのご協力を受けて館長業務を続けています。

私の専門は古生物学という分野ですが，簡単に言うと化石の研究です。霊長類研究所にいたので主にサルの化石を研究しているのですが，一緒に見つかる動物化石も研究しています。現在では，東南アジアのミャンマーを中心に後期中新世～前期更新世（約 1000 万年～ 200 万年前）の動物化石相の変化を研究しています。

化石として見つかる動物の部位は歯や骨の破片が多いので，化石の同定のために現生の動物標本と比較する必要があります。こういった標本は自然史系の博物館に所蔵されているので，これまで様々な国の博物館に行って動物標本の観察をしてきました。博物館の展示もわかっているつもりだったのですが，いざ総合博物館に来てみると，それまで知らなかったことがたくさんあることがわかってきました。

例えば，博物館にはたくさんの標本が管理・展示されています。それらの標本の情報はデータベースとして公開されていることが多いのですが，実際には登録されていない標本が山ほどあることがわかってきました。どんなに片付けても，次々と未登録の標本が出てくるのです。

今まで博物館を訪問する際には，そういった情報が最初からあるものとして利用してきたのですが，実際にはバックヤードでの博物館員や学芸員の皆さんの地道な努力によって構築されてきたのだということがよくわかりました。博物館好きな人には楽しい作業なのですが，大変な労力を必要とする作業であることは間違いありません。見る立場としての博物館の印象と，見せる立場としての博物館の実像がこれほど違うことに改めて気付かされました。



また，最近は博物館の展示方法が革命的に変わりつつあります。令和４年度に博物館法が改正され，博物館の標本情報のデジタルアーカイブ化（DX: Digital Transformation）が求められるようになりました。博物館が所蔵する標本も，３次元でのデジタル化（3D DX）を進める必要があります。将来的には，博物館の貴重な標本を自宅のコンピュータで閲覧したり，博物館に設置されているモニター画面を通して様々な角度から見たりするようになるのかもしれません。また，こういったデジタル情報は基本的に半永久的に保管することができます。災害などにあっても，貴重な標本情報を後世に残すことができるでしょう。

新しいデジタル博物館の時代が，もう始まろうとしているのかもしれません。

（総合博物館長　高井正成）

# 新任スタッフ

## 藤原 恭司 （研究員） 4月1日着任

4月1日に総合博物館の研究員（魚類）に着任した藤原恭司です。3月までは国立科学博物館に学振 PD として所属していました。専門分野は魚類分類学・系統学で，小型の底生魚類を主な対象としています。特に，腹部に吸盤状の構造をもつウバウオやハゼの仲間を中心に研究を進めています。私の研究では遂行する過程で，博物館標本をしばしば活用するため，これまでの経験を業務でも十分に活かしていきたいと考えています。

京都大学の魚類標本コレクションは，総合博物館と舞鶴水産実験所にそれぞれ所蔵されており，これらを合わせると標本数は約 40 万点に達します。これは国内の魚類コレクションの中でもトップクラスで，また，分類学の分野で学術的価値の高いタイプ標本の所蔵数は 1,300 点にのぼります。一方で，これらの標本データのデジタル化やタイプ標本の網羅的なカタログ化など利活用に際しては，少なくない課題が存在するのが現状です。



在任中は，これらのコレクションの維持管理を行うとともに，研究者から一般の方々まで多くの人が利用できる体制を整えていきたいと考えています。

## 市岡 幸雄 （特定研究員） 4月1日着任

4月から長尾自然環境財団の助成によるプロジェクトの一員として，博物館で働くことになりました。この一年，インドシナ山岳の爬虫類・両生類を調査・研究する予定です。

インドシナは，世界の中でも動植物の種の多様性が高い生物多様性ホットスポットの一つとして知られています。私はまだ現地調査に一度しか参加していませんが，それでも爬虫類／両生類の生息数と種数の多さは十分に実感できました。さらに，まだまだ多くの新種が隠れていそうな気配も感じられました。それに，既知の種であっても分類が混乱していて，実際は新種が隠れている場合もあります。このような背景から，インドシナ地域の生物相を詳細に調査する必要性は，とても高いと言えるでしょう。

ところで，私の主要な研究テーマはカエルの産卵生態です。なので，実は標本を作ったり，遺伝子を調べたり



という作業は京都大学総合博物館に来るまで行ったことがありませんでした。そんな私ですが，なんとか早く上達してプロジェクトに貢献できるように，努力しようと思います。今後ともよろしくお願いします。

# 特別展「吉田遺産探訪―遺跡・古図・剣鉾―」に寄せて

このたび，特別展「吉田遺産探訪―遺跡･古図･剣鉾―」（2025 年 3 月～ 5 月）にて「剣鉾祭礼の姿」を展示する機会を得ました。大切に守り伝えてきた文化が地元にある京都大学総合博物館で紹介され，代々受け継いできた先人たちも，きっと喜んでいることと思います。

展示のきっかけは，2021 年に博物館所蔵の「山城国吉田村古図」（以下，古図）が公開され，地域の有志が強い関心を示したことに始まります。古図には「矛」との記載があり，これが現在の「剣鉾」を指していると分かったことが大きな手がかりとなりました。

吉田地区の剣鉾は，口伝では平安時代から存在していたとされ，由緒や謂われも語り継がれています。文献として確認できるのは江戸時代初期で，疫病を祓うための祭具として神輿の先導を担う重要な役割を果たしています。長さは約 7 メートル，重さは 25 キロ以上にもなり，当初は小ぶりだったものが応仁の乱以降，時代とともに次第に大型化していきました。祇園祭の山鉾も同様に，疫病退散を祈願するもので，両者は目的や変遷において共通点を多く持っています。

剣鉾を立て起こすのは 3 人がかりで行いますが，最終的には 1 人で「差し皮袋」に収めて差します。重量のほとんどが上部に集中しており，バランスを保つのは至難の業です。剣をまねかせ，鈴を八の字に鳴らす技術も高度で，長年の経験と技術が必要とされます。吉田の鉾差しは「京都市無形民俗文化財」にも登録されており，誇るべき伝統技術といえるでしょう。



特別展の様子



剣鉾を立て起こす様子(総合博物館前､2024 年 10 月 13 日)

古図には，田畑ごとの年貢の納入先や地割，面積，耕作者の情報が細かく記されており，現在伝わっている 5 本の矛の名前のほか，これまで知られていなかった 3 本の名前も発見されました。吉田には 5 本と思われていた剣鉾が，実は 8 本存在していたことが明らかとなり，関係者一同驚くとともに，大きな喜びとなりました。この事実は新聞にも大きく取り上げられ，地域にとっても意義深い発見となりました。

また，明治期の『愛宕郡各町村沿革調』にも吉田村の祭礼には 8 本の矛が記されており，その費用は田地の収入米で賄われていたとあります。今回の発見と見事に符合し，古文書の記述の正しさが改めて裏付けられた形となりました。

地域には「京都大学総合博物館は学生のための場所」との誤解も一部にありますが，こうした特別展を通じて，地域の皆さまにも親しみやすくなり，来館をきっかけにさまざまな文化財や研究成果に触れられる良い機会になると感じております。吉田には他にも多くの伝統芸能や歴史が息づいており，今後もこうした企画を継続いただければ，地元の励みにもなると存じます。

最後に，長い歴史を持つ剣鉾差しですが，次世代の担い手育成が現在の大きな課題です。祭礼には吉田地区にご縁のある方が限られますが，京都大学関係の方々も対象となります。春から秋にかけては毎月練習を行っておりますので，まずは見学や体験にお越しいただければ幸いです。

（吉田剣鉾保存会 会長　中川勝博）

# 第 28 回大学博物館等協議会・第 20 回日本博物科学会に参加して

2025 年 6 月 19 ～ 20 日に，九州大学総合研究博物館において開催された第 28 回大学博物館等協議会・第 20 回日本博物科学会に参加しました。本大会では，19 日に開催されたシンポジウム「大学博物館収蔵再考―新たな段階にむけて―」を中心に，14 題の口頭発表と 3 題のポスター発表が行われました。

シンポジウムでは，九州大学総合研究博物館，東京大学総合研究博物館，および北海道大学総合博物館による収蔵問題に関する現状報告，ならびに博物館の収蔵問題に関する国際的動向と役割について，4 題の口頭発表が行われ，その後パネルディスカッションが実施されました。

シンポジウムの中では，とりわけ東京大学総合研究博物館の事例で紹介された「博物館標本の分散収蔵」が印象深く感じられました。研究活動が続く限り標本は増え続け，収蔵可能な面積は減少し続けますが，一方で収蔵スペースに関する予算が増えることは近年ほとんどありません。この現状を正確に捉え，「すべてを手元に置いておく」という理想から離れ，使用頻度や重要度に応じて収蔵場所を選択し，標本活用の最適化を目指すというのが，発表の趣旨でした。






京都大学の魚類コレクションでも，当館と舞鶴水産実験所で分散収蔵がなされており，その趣旨に賛同するとともに，発表で紹介された実践方法には参考となる点が多くありました。たとえば，遠隔地にある標本の管理を簡易な電子化によって効率化すること，タイプ標本や出版証拠標本のように重要度の高い標本は本拠地に保管し，詳細なデジタルアーカイブを構築することなどが挙げられます。

口頭発表で特に関心を引いたのは，「自然史標本の歴史的価値と最新研究の両立：海外大学博物館の事例」という演題で，イェール大学附属ピーボディ自然史博物館の展示改装において，古い保存・展示手法の歴史的価値をどのように保存するかという内容でした。発表者が実際に現地を訪問し，見学や聞き取りを行った体験に基づいており，恐竜展示の改装においてはその過程をタイムラプス撮影などさまざまな方法や角度から記録し，クラウド上で共有していたことが紹介されました。どの博物館もいつかは改修や展示のリニューアルを迎えることになるため，その際にどのような注意点や工夫ができるかを考える良いきっかけとなりました。

また，当館のスタッフである塩瀬隆之准教授は，「博物館展示論におけるモード B 鑑賞（学芸員／展示デザインの視点）の共有」という題で発表されました（6 頁に関連記事）。展示デザインを行う側の視点から，今年度開催されている万博を例に取りながら，どのように展示を見ているのかについて詳細に説明されていました。

私は今回，本大会に初めて参加しました。これを通じて，博物館の重要な役割である「研究」「収蔵」「展示・教育普及」のうち，これまで学ぶ機会が少なかった「収蔵」や「展示・教育普及」について新たな発見があり，自身の考えを深めることができ，大変有意義な経験となりました。

（総合博物館 研究員　藤原恭司）

# 展示技術博覧会としての万博における「モードB鑑賞」

2025年4月13日，大阪関西万博が開幕した。158の国と地域が集まり，様々な文化や歴史，各国が思い描く未来に向けた先端技術を紹介しあう世界最大の博覧会である。さらにそのメッセージを紹介する展示品のレイアウトや映像技術などの展示技法についても，世界最大の見本市と言える。大学で「博物館展示論」という学芸員科目を担当するにあたり，例年は具体的な企画展や特別展において2通りの鑑賞方法を紹介している。

モードA鑑賞は一般的な来館者として，他方の「モードB鑑賞」は展示技法にのみ注目する。この万博会場の各パビリオンを対象に，動線，照明，キャプション，映像展示，配線の始末まで，これほど博物館展示の学びに直結する機会は稀有である。予算が潤沢にあれば最先端の展示機器をそろえることもできるが，そうでない場合にもどこで始末をつけるか，どういった工夫をこらすかなど各国パビリオン展示担当者の矜持をかいまみることができる。

筆者は2020年より大阪関西万博・政府日本館基本構想有識者として関わる機会を得た。ホスト国としてのメッセージや展示表現の在り方を構想した経験から，各国のパビリオンを見る際にも，世界のそれぞれの国が文化や歴史の何を大切にし，どの部分を特に表現しようとしたのか，さらにそこから未来に向けてどのようにビジョンへの共感を得ようとしているのかについて，効果的な展示技法を探究する世界の叡智にふれることができた。最先端のディスプレイやプロジェクタを駆使したきらびやかな展示もあるが，イマーシブに空間を包摂するような映像表現とメッセージとがピッタリはまった展示技法などはより興味深い。



プロジェクションマッピングを駆使した映像表現



斜め使いのディスプレイとはみ出たままの字幕



フォトバイオリアクターによる発酵文化の表現

貴重な美術作品を所せましと並べて来館者を圧倒する国もあれば，暗いホールのなかで光に照らされた歌手一人の美しい歌声だけで来館者を魅了する国もあるなど，百者百様の魅力にあふれている。政治的・経済的な観点から万博を分析・評価する視点はそれら専門家や評論家に委ねたいと思うが，博物館の展示に関わる学芸員や，関連する職に将来就きたいと考えている学生には，この千載一遇の学びの場を最大限生かしてもらえたらと切に願う。

（総合博物館 准教授　塩瀬隆之）

・大阪関西万博公式 HP(https://www.expo2025.or.jp/)
・万博政府日本館公式 HP(https://2025-japan-pavilion.go.jp/)

# 3D ディスプレイ・デモ（子ども博物館）

不定期で土曜日に開かれている子ども博物館に，新兵器が導入されました。ソニーが新たに発売した「空間再現ディスプレイ（Spatial Reality Display, ELF-SR2）」です。本物と見間違うような実体感のある３D 空間映像を提供してくれるディスプレイで，総合博物館では簡単に「３D ディスプレイ」と呼んでいます。

このディスプレイは，視線認識センサーを使用してモニター正面に座った人の眼の位置を常に検出し，左右それぞれの目に最適な映像を生成して，クリアで色鮮やかな立体視体験を実現しています。高速で見る人の瞳の位置を的確にとらえ続け，水平や垂直方向のみならず，奥行方向に対しても，左右の目の位置をリアルタイムに検出できるようです。そして，左右の目の位置に連動した映像をリアルタイムに生成し，常に両目に正しい視点映像が提示されることで，動体視差が再現され，目線の変化にも対応した立体視が可能になるようです。

実際にディスプレイの正面に座ってもらい，その人が頭や体を動かすと，その視線の動きを検出してディスプレイ上の対象物の角度が自動的に変わり，立体的な画像がそのまま継続して動くので，まるで自分の目の前に対象物が飛び出しているような感覚になります。大人が座って動いても面白いのですが，椅子に座った子ども達は，皆さん手を伸ばしてディスプレイに触ってしまうので，指の跡をきれいにするのが大変でした（笑）。



車の三次元画像を楽しんでいる親子



3D ディスプレイの画面。映っているのは青のスニーカー

ディスプレイには，恐竜・車・建物・家具などの３D データが内蔵されていて，自動的にそれぞれの３D 画像が現れて回転したり，ドアが開いたりします。ただ座って見ているだけでも楽しめますが，設定を変えると自分で画像を拡大・縮小したり，向きを変えたりすることができます。いろんな楽しみ方ができるのですが，マウスの扱いに慣れていない子どもはちょっと苦戦しているようでした。

また，総合博物館で所蔵している３D データもこのディスプレイにアップしてみました。提供したデータは骨や化石などの色の無い白い画像だったのですが，ゾウの全身骨格をいろんな角度から眺めて楽しんでいる子どもや，何の化石か全くわからない画像をいじくり回して動物名を当てるゲームをしたところ，子ども達に大受けでした。

唯一の難点は，ディスプレイ上の画像を横から見ていると，自分の視線とずれている画像が出てくるので，少し気持ちが悪くなることくらいです。子ども博物館は，親子連れで来られていることが多く，子どもの斜め後ろに立っている親御さんは，ずっと見ていると目眩がしてくるようでした。

今後は総合博物館で用意するコンテンツを増やして，来館される方達が自由にアクセスできるようにしたいと考えています。また，現場でスマートフォンや iPad などを使って実際に３D 画像を撮像して，それを３D ディスプレイに取り込んで，「自分のミニ博物館」を楽しんでもらうことも予定しています。ぜひ，週末の子ども博物館においで下さい。

（総合博物館 教授　高井正成）

総合博物館コレクション研究〈24〉

# 私が新種記載したタイ産単子葉植物と京都大学植物標本庫（KYO）

現在，この地球上には約 214 万種［1］の生物が記載あるいは記録されている。一方，未知の種を加えると，地球上に約 360 万種～ 1 億 1170 万種の生物が生活していると推定されている［2］。地球上に何種の生物が生活しているのかについては，生物多様性研究の最重要課題の一つであるが，この推定幅の広さが物語っているように，まだほとんどわかっていないと言っても過言ではない。これを明らかにしていくこと，つまり，新種の記載は，生物多様性解明のための気の遠くなるような道のりのささやかな一歩［3］であるが，これは分類学に託されている。

私は植物系統分類学を研究している。私の学生時代は Index Kewensis という書物で種の情報を 1 つ 1 つ集めていたが，最近は便利になったもので，IPNI や POWO といった検索サイトで種を含むいろいろな分類群のデータが一瞬のうちに集まる。このうち IPNI を使って果たして自分がこれまでいくつの分類群を記載したり組み換えたりしてきたのかを調べてみると 112 個であった［4］。そのうち，タイプ標本の指定をともなう新分類群の記載については，新種 21，新変種 8，新雑種 4 の合計 33 であったが，その多くのタイプ標本は京都大学植物標本庫（KYO）に収蔵して頂いている。その内訳は，日本産 17，タイ産 7，中国産 7，韓国産 2 である。本稿では，そのうち，タイ産の新種について，その発見の経緯や発見時の様子をご紹介したい。

私は京都大学大学院理学研究科で植物系統分類学研究室を担当しているが，私たちの研究室は古くからタイ植物相解析プロジェクト（Flora of Thailand Project）に関わってきた。タイ植物相解析プロジェクトは，1965 年にイギリスのキュー王立植物園で行われた会議で発足し，当初はタイ，デンマーク，フランス，イギリス，オランダの研究者で構成された。のちに，日本はこのプロジェクトに参加するが（写真 1），現在に至るまで，京都大学理学部（大学院理学研究科）の植物学科第 3 講座（植物学教室植物系統分類学研究室）が日本での中心的役割を担ってきた。このプロジェクトへの関わりの礎を築いたのは，本研究室第 4 代教授の岩槻邦男先生である。その後は，加藤雅啓先生（東京大学→国立科学博物館）と私がこのプロジェクトの日本代表委員を引き継ぎ，現在に至っている。このような経緯から，KYO にはタイの植物標本が多く収蔵されていて，その数は恐らく日本一である。それゆえ，現在においても東南アジアの植物を研究する世界各国の研究者が KYO を訪れ，KYO は東南アジア植物の系統分類学を支えている。




写真 1. 2017 年にタイのクラビで開催された第 17 回タイ植物相解析プロジェクト会議の集合写真。中列左から 2 人目が著者

私は，大学院に入学してからずっと，基本的には単子葉植物の系統分類学を研究してきた。私が最初にタイを訪れたのは，1988 年 7 月～ 9 月の 87 日間に及ぶ第 9 次京都大学タイ植物探検隊（The 9th Kyoto University Botanical Expedition to Thailand）で（小山博滋隊長），インタノン山（Doi Inthanon）とクラドン山（Phu Kradueng）を中心に調査を行なった。この探検隊の目的は，タイの単子葉植物の植物相の解明であったが，その時に採集した約 28000 シートの標本のうち，約 10000 シートは KYO に収蔵されている。その中には，私が採集したタイプ標本も含まれていて，例えば，クラドン山産のジャノヒゲ属やオリヅルラン属（表紙写真）（ともに単子葉植物クサスギカズラ科）がそうである。

最初のタイ調査で，タイにはまだまだ未知の植物が眠っていることが強烈な印象として私の心に残った。日本のジャノヒゲ属は，高さ 10 cm から数十 cm ほどの根出葉が束生する草本で，その中心から花茎を上に向けてつけており，花茎の他に地上茎は見当たらない。ところが，クラドン山産のジャノヒゲ属には，匍匐する地上茎をもつものがあり，調べてみると新種であった（*Ophiopogon kradungensis* M. N. Tamura, paratype, Tamura T-60500, KYO, 表紙写真左）。オリヅルラン属についても，普通はほぼ球形のさく果をもつが，クラドン山産のオリヅルラン属には，細長いさく果をもつも




写真 2. 1997 年の大阪市立大学タイ植物探検隊でインタノン山にて開花標本を採集し，1998 年に Acta Phytotaxonomica et Geobotanica 49 巻から新種発表した *Ophiopogon siamensis* の holotype。KYO に収蔵




写真 3. タイのインタノン山に自生し，白く細長い苞が特徴的で，2001 年に Blumea 46 巻から新種発表した *Campylandra siamensis* (=*Rohdea siamensis*) の paratype。KYO に収蔵

のがあり，これもやはり新種であった（*Chlorophytum dolichocarpum* M. N. Tamura, holotype, Tamura T-60477, KYO, 表紙写真右）。専門の植物であるにもかかわらず，自分の認識を超えた植物を目の当たりにした時の感動は，今でもはっきりと覚えている。

その後，タイには 20 回以上訪れていると思う。その間，タイから 4 種 1 変種を発見し記載したが，いずれもインパクトのある植物であった。インタノン山産のジャノヒゲ属は，直立して若干木質化する地上茎をもつ新種で（*Ophiopogon siamensis* M. N. Tamura, holotype, Tamura T-7004, KYO, 写真 2），まるで木のようなジャノヒゲ属であった。上述の第 9 次京都大学タイ植物探検隊の仲間でタイの友人の Rachun Pooma といっしょに記載した *Chlorophytum longissimum* var. *phukhaense* M. N. Tamura & Pooma（holotype, Tamura & Pooma 19700, KYO）は，倒れた果茎の先端から新個体を生じる新変種である。やはりタイの友人の Manop Poopath と記載した *Peliosanthes brevicoronata* M. N. Tamura & Poopath（holotype, Tamura & al. 20488, KYO）は，*Peliosanthes* でありながら，属の特徴の副花冠をほとんど発達させない点で興味深く，系統解析が待たれる。*Campylandra siamensis* Yamashita & M. N. Tamura（paratype, C. F. van Beusekom et al. 4142, KYO, 写真 3）(=*Rohdea siamensis* (Yamashita & M. N. Tamura) Yamashita & M. N. Tamura）は，まるで白髪を蓄えたオモトのような風貌の新種で，白く細長い苞が特徴的である。タイの友人の Sawita Yooprasert といっしょにクラドン山のとなりのルアン山で発見したジャノヒゲ属の新種 *Ophiopogon phuluangensis* M. N. Tamura & Yooprasert（holotype, Tamura & al. T-68613, KYO）は，上記のクラドン山産の *O. kradungensis* とよく似ていて，花を見るまではこれを *O. kradungensis* に含めていたが，2023 年の調査で花を観察することができ，新種であることが判明した。系統解析を行うと，両種は姉妹群関係となり，両山の距離，わずか 35 km の間に生殖的隔離が成立したと考えられる。

新種の認識は，新種発表時の論文に標本を引用する形で示されている場合が多い。私の場合，論文に KYO の標本を多く引用しているので，私の種認識の範囲や妥当性を確かめたい場合は，KYO の標本を検討する必要がある。つまり，私の種認識は KYO の標本のおかげで検証可能になっている。また，標本は種の形態的変異幅を把握するのに必要不可欠である。KYO には，種によっては同一種に 100 シート以上の標本が蓄積されている。これにより，KYO では種の形態的変異幅を極めて正確に把握することができ，KYO は詳細な植物分類学の基礎を築いている。KYO には，現在，160 万シートを超える植物標本が収蔵されているが（総合博物館・永益教授による），これらの 1 枚 1 枚の標本が将来の植物多様性研究の大切な礎となっていることに間違いはない。

（理学研究科 教授／総合博物館 連携教員　田村　実）

[1] IUCN 2025. The IUCN Red List of Threatened Species. Version 2025-1 <https://www.iucnredlist.org> [last updated on 27 March 2025].
[2] Gaston, K. J. & Spicer, J. I. 2004. Biodiversity: an Introduction, 2nd ed. Blackwell, Malden.
[3] 田村 実 2015. ささやかな一歩. 弘報 202, p. 2. 京都大学大学院理学研究科・理学部 .
[4] IPNI 2025. International Plant Names Index. Published on the Internet http://www.ipni.org, The Royal Botanic Gardens, Kew, Harvard University Herbaria & Libraries and Australian National Herbarium. [retrieved on 17 June 2025].

# レクチャーシリーズ（第 165 回）

開催日：2025 年4月 12 日（土）

「川や海の水から生き物発見！環境 DNA で探る水辺の生物多様性」というタイトルで辻冴月（情報学研究科）先生にご講演いただきました。辻先生は環境 DNA 分析や水域生態学を研究されています。環境 DNA は生物から水や土壌などに放出された DNA です。環境 DNA を回収・分析することでその場に生息する生物を明らかにする技術を用いて近年様々なことが明らかになっています。



調査の様子（辻先生提供）

本講演では，環境 DNA 分析の仕組みや問題点，環境 DNA 分析から分かることやどのようなことに役立っているのかを研究例を紹介しながら解説をしていただきました。辻先生が取り組まれた宮崎県大淀川水系に生息する外来魚コウライオヤニラミに関する環境 DNA 調査から，コウライオヤニラミが侵入から数年のうちに大淀川水系全体に分布を広げ，他の魚類に深刻な影響を与えていることが定量的に示されました［1］。調査結果から宮崎県では大規模な生息調査が実施され，大淀川水系のコウライオヤニラミ「持ち出しと放流」が禁止されることになったことが報告されました。

参加者からは，水中に DNA はどれくらいの期間残るのか？川の水をすくってから結果が出るまでにどれくらいの時間がかかるのか？など終了時間まで質問が尽きませんでした。

（総合博物館 博物館研究員　中川千種）

［1］“ 超 ” 侵略的?!新たな外来魚コウライオヤニラミ—環境 DNA 調査で明らかとなった深刻な分布拡大と魚類相への影響—（2025.05.23 確認）
https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2024-06-21

# 防災訓練を実施

開催日：2025 年 4 月 14 日（月）

総合博物館は，教職員の防災に関する意識の高揚と知識・経験の向上を図ることを目的に，京都市左京消防署の指導・助言のもと，防災訓練および消火器実技訓練を実施しました。

当日は，地震発生の館内放送でスタート。震度６強の地震が発生し，揺れは間もなく収まったとの想定ですが，南館２階で火災報知器が発報します。防火責任者（事務長）から，出火場所と文化財の安否確認，１１９番通報等の指示がされると，各担当者は，館内配置の消防署員が見守る中，それぞれの役割を本番さながらの真剣さで行いました。

出火なしの確認後は，避難を促す館内放送が流れ，1階と2階に分かれた看視員の誘導により，観覧者役の職員（文系共通事務部等からの参加者約 15 名）が，各展示室から玄関前まで速やかに避難しました。中に一人，足首を捻挫した負傷者役を階段から搬送する際には，階段避難車イーバックチェアを活用しました。

続いて玄関前で，消防署員の指導を受け，消火器実技訓練を５人１組で実施。訓練用の水入り消火器から，標的めがけて一斉に水が噴射されると，跳ね返った水飛沫が春の日差しにキラめきました。



教職員による消火器訓練

今回の訓練は，教職員にとっては，避難手順を再確認し，災害時の行動・意識力を高め，館内観覧者への誘導手順を共有する絶好の機会となりました。

（総合博物館 主任　管野貴仁）

# 来館者から提案された魚類の新和名が論文で採用

2023 年 8 月 9 ～ 27 日に総合博物館で開催されたスポット展示「魚の名前　いろいろな和名」では，京都大学の研究者が命名した魚類の和名を中心とした展示とともに，まだ和名のない魚（ヒラメ科の一種）に対する新しい和名を，一般の来館者から募集しました。このたび，2025 年 3 月に発表された論文で，「まりも」さん（ペンネーム）が提案した「ゴモクガンゾウビラメ」という名前が，ガンゾウビラメ属の魚（*Pseudorhombus pentophthalmus*）の新たな標準和名として正式に採用されました。「まりも」さんは，この名前の由来について「五つの目玉（模様）が五目並べをしているように見えるから」と説明しており，本種の特徴をよく表しています。*Pseudorhombus pentophthalmus* は，インドネシアから日本の沖縄島までの暖かい海に分布します。これまで日本では「タマガンゾウビラメ」と呼ばれていた種が *P. pentophthalmus* であると考えられていましたが，今回の研究によって「タマガンゾウビラメ」の学名は *Pseudorhombus ocellifer* であることが判明しました。その結果，真の *P. pentophthalmus* には和名がないことが分かり，新しい標準和名が命名されることとなりました。

（総合博物館 元研究員　松沼瑞樹）



沖縄島産のゴモクガンゾウビラメ



スポット展示「魚の名前　いろいろな和名」

2024 年度特別展

# 文化財発掘XI「吉田遺産探訪ー遺跡・古図・剣鉾ー」講演会

開催日:2025 年 4 月 19 日（土），26 日（土）

毎年，春に開催されてきた文化財発掘は今年で 11 回目を迎えました。今回は「吉田遺産探訪」と称して，京都大学吉田キャンパスが立地する旧・愛宕郡（おたぎぐん）吉田村との関りに焦点をあてた展示です。吉田キャンパスより出土した遺物のほかに，18 世紀後葉から 19 世紀初頭頃を描いている「山城国吉田村古図」（総合博物館蔵）の原本を期間限定で公開しました。また，この古図に描かれた剣鉾の名称とも関わる唐胡麻（とぐるま）頭屋飾りの実物展示をおこない，2008 年以降毎年 10 月第二日曜日に開催される吉田今宮社神幸祭の巡行行列 VTR も上映しました。鉾差しの様子を記録した映像からは，実際の鈴（リン）の音を体感することができたと思います。

4 月 19 日・26 日と 2 回開催した本特別展の関連講演会では，周辺地域にお住いの方々を中心に多くの皆様にご参加をいただきました。講演室は満席になることが予想されたため，開催日当日には急遽整理券を配布する対応をとり，講演室が満席になった後はサテライト会場（オンライン）にて講演の様子を視聴していただけるようにしました。各回ともに 70 名強の方々が集まり，講演会終了後には講演者による展示解説も実施して，盛況のうちに終えることができました。



講演会終了後の展示解説の様子（2025 年5月 26 日）

（総合博物館 研究員　髙野紗奈江）

子ども博物館だより〈8〉

# 青空子ども博物館 in 円山

5月6日に「青空子ども博物館 in 円山（以下：青空子ども博物館）」を円山公園音楽堂（京都市東山区）で開催しました（共催：アクティブケイ）。青空子ども博物館は，5月5日の「子どもの日」にちなんで2007年から開催しています。開催前夜から当日正午頃まで雨が降り続きましたが午後には止み，今年も無事に開催することが出来ました。「円山のお地蔵さんについて知ろう」や「絵本の読み聞かせ」，「紙ヒコーキ大会」など青空子ども博物館限定企画や通常の子ども博物館で行っている「生き物どうしのつながりを見てみよう！」をはじめとする4プログラム，合計7プログラムを実施しました。

青空子ども博物館恒例イベント「紙ヒコーキ大会」では，飛び入りで参加したスタッフが上位入賞をして誇らしげにヒーローインタビューに対応している姿に会場がなごみ，また，スタッフOBがプログラムを提供してくださり，ご来場いただいた方と会話を楽しんでおられる姿を見かけました。ご来場いただいた方だけではなく，




参加したスタッフも楽しむことができました。

「今年初めて青空子ども博物館に参加しました」というスタッフが多く，新型コロナウイルス感染症による活動制限のある期間の長さを感じる時もありました。残念ながら終了時刻まで「青空」を見ることは出来なかったですが，新緑に包まれた野外音楽堂でGW最終日の午後のひとときを過ごしました。

（総合博物館 博物館研究員　中川千種）

# 美術史学ってどんな学問なの？

筆者は美術史学を専攻しているのですが，みなさんは美術史学と聞いてどんな学問を想像しますか？「美術史学」という漢字は，美術の歴史に関する学問と書きます。しかしこの説明だけでは，その研究内容をはっきりとイメージするのが難しいのではないでしょうか。そこで一見掴みどころのない美術史研究の一例をわかりやすく説明することを，本ワークショップ(WS)の目的にしています。

さて，ここからはWSで実際にどのようなことを行っているのかについて簡単にお話したいと思います。このWSは二つのシンプルな問いを，順に投げかけるところから始まります。

①絵が上手になるにはどうすればいいと思いますか？

②昔の画家は，絵の上達のためにどのようなことをしていたと思いますか？

もちろん，これらの解答は一つに定まるものではありません。しかし便宜上，②の問答の後に解答例の一つとして模写に言及します。すなわち昔の画家にとって，他者の絵を写すことは絵の上達手段の一つだったということです。さらにこの模写を通して学んだ表現や技法を，自作に反映させる絵師もいました。それゆえ異なる画家によって作られたにもかかわらず，類似している作品が出てきます。このような類似した作品を活かし本WSでは，子どもたちに絵の比較を通してそのペアを探すことに取り組んでもらっています。具体的には，十二点の作品の中から六組のペアを見つけることにチャレンジしてもらっています。

ところで以上のWSには，子どもたちの集中力を維持するための工夫を施しています。その一例が，ゲーム形式の導入です。本WSでは，トランプゲームの一種である「神経衰弱」を絵で行います。これにより，子どもたちが楽しみながら学習できる環境作りに取り組んでいます。

最後に，冒頭に言及したWSの目的に立ち返りたいと思います。その目的とは，一見掴みどころのない美術史研究の一例をわかりやすく説明することでしたが，その一例が絵の比較だというわけです。

（文学研究科 修士課程　横田直宏）

# サントトマス大学との部局間学術交流協定

総合博物館はフィリピンのサントトマス大学と生物多様性研究や大学博物館活動における研究協力の部局間学術交流協定を 2025 年 7 月に締結しました。

6 月 26 日（木）には，サントトマス大学の Mae Lowe Diesmos 氏が総合博物館を来訪し，総合博物館との研究協力について議論を行いました。サントトマス大学は 1611 年に設立された私立大学で，アジアで最古の大学として知られています。

フィリピンは多くの島嶼で構成され，生物多様性が極めて高い地域ですが，調査研究はまだ不十分です。同様に島嶼の特徴をもつ日本との共同研究により，島嶼に生息する生物，特に陸上脊椎動物の多様性と種分化や進化を明らかにすることを目指しています.




（総合博物館 教授　本川雅治）

# プリンスオブソンクラー大学との大学間学術交流協定

プリンスオブソンクラー大学はタイ南部に位置する研究型大学です。総合博物館が主提案部局となり，京都大学とプリンスオブソンクラー大学の大学間学術交流協定が 2025 年 7 月に締結されました。7 月 24 日（木）にプリンスオブソンクラー大学で開催された研究協力に関するミーティングに私が参加しました。

総合博物館では，2022 年にプリンスオブソンクラー大学自然史博物館との部局間学術交流協定を締結し，大学博物館に関する研究･教育の交流を実施してきました。大学間交流が締結されたことで，さらに活発な交流につなげていきたいと思います。



（総合博物館 教授　本川雅治）

# 国立台湾大学博物館群人類学博物館からの訪問

総合博物館は大学博物館の分野横断的な国際ネットワークを目指しており，国立台湾大学博物館群との部局間交流協定を締結しています。8 月 3 日（日）に国立台湾大学博物館群の構成博物館である人類学博物館から林開世館長をはじめとする 9 名が総合博物館を訪問して，自然史・文化史・技術史の分野を横断した常設展示を視察しました。総合博物館では，台湾大学博物館群との交流を今後も発展させ，アジアの大学博物館ネットワークにつなげたいと考えています。




（総合博物館 教授　本川雅治）

研究資源アーカイブ通信〈33〉

# アーカイブズの整理技法に関するノート(2)
## 容器リストとプロジェクト索引の作成

前稿（2019 年）では，建築作品名から記録を探すためのツールとして，プロジェクト索引（project index）がはたす役割について解説した[*1]。

アーカイブズ目録（finding aids）に含まれる容器リスト（container list）は，記録の所在場所を網羅的に示す。これに索引を加えることで，収蔵庫内に分散する関連記録を目録上のまとまりとして認識できる。索引の項目として一般的なのは「人物」や「場所」だが，建築分野で求められる項目は，建築作品，コンペ案，出版，展示といった業務単位を意味する「プロジェクト」である。

本稿では，京都大学研究資源アーカイブ（Research Resource Archive, Kyoto University，以下 KURRA）での実践例を通して，リストと索引の作成方法を解説する。

### 「増田友也建築設計関係資料 , 1930–1984」の構成

KURRA は 2024 年，工学研究科建築学専攻所蔵の「増田友也建築設計関係資料 , 1930–1984（主年代 1950–1981）」(以下, 増田資料)の目録を公開した[*2]。増田友也(ますだ・ともや，1914–1981）は，本学で教鞭を執りながら京都大学総合体育館等の学内施設，徳島県鳴門市の庁舎や教育文化施設等を設計し，建築家としても活躍した。

KURRA が事業成果として作成するアーカイブズ目録は，アーカイブズの記録全体を対象とする。増田資料ではカリフォルニア大学バークレー校の環境デザイン・アーカイブズが 2000 年に発表した「スタンダード・シリーズ」を参照し[*3]，記録内容にしたがって全体を六つの「シリーズ」に分けた［表 1］。各シリーズの下には記録種別を示す「サブシリーズ」を設け，複数の「アイテム」（図面や写真等）が含まれるフォルダのアイテム・リストをサブシリーズの下に設置した。シリーズとは，アーカイブズの専門用語で，記録作成者の活動が関連することによって生じる一連の記録群を指す[*4]。

表 1：増田資料のシリーズ

| シリーズ | サブシリーズ |
|---|---|
| 1：研究資料 Research Materials, 1938–1982 | |
| 2：プロジェクト記録 Project Records, 1951–1981 | 2-1：図面（原図一点別） |
| | 2-2：図面（原図ケース入） |
| | 2-3：図面（青焼き冊子） |
| | 2-4：会社記録 |
| 3：プロジェクト記録（京都大学） Project Records, Kyoto University, 1930–1984 | 3-1：図面（原図一点別） |
| | 3-2：図面（原図ケース入） |
| | 3-3：図面（青焼き冊子） |
| | 3-4：会社記録 |
| 4：プロジェクト記録（徳島県鳴門市ほか） Project Records, Naruto City, 1962–1980 | 4-1：図面（原図一点別） |
| | 4-2：図面（原図ケース入） |
| | 4-3：図面（青焼き冊子） |
| | 4-4：会社記録 |
| 5：写真 Photographs, 1959–1980 | 5-1：アルバム |
| | 5-2：紙焼き，書簡等 |
| 6：追加資料 Additional Materials | 6-1：鳴門市寄贈図面 |
| | 6-2：施設部寄贈図面 |

リストに加えて，プロジェクト索引も作成した。索引は，図面，写真，会社記録等の設計業務に関する記録（シリーズ 2 ～ 6）を対象とし，シリーズを横断して各プロジェクトに関係するフォルダ番号をすべて列挙した。プロジェクトに関係しないフォルダの情報は，索引には記載されない。増田資料の容器リストは 960 フォルダ分(行)となり，このうち 70 行（7.3％）がプロジェクトに関係しないフォルダであった。

アーカイブズの利用者は個々の記録（アイテム）だけでなく，調査対象の前後を含む記録群に関心を寄せる。そのため，記録群（容器）を単位とするリストと索引があれば，アイテム単位まで記述しなくても目録の利便性が損なわれることはない。こうして記述を省略することは，目録作成のコスト削減にも寄与するといわれる[*5]。

### 容器リストの作成

容器リストがあれば，利用者はすべての記録をおおむね把握できる。増田資料では，「箱／フォルダ番号」「タイトル」「日付」「プロジェクト番号」をリストの項目とした。これらはフォルダの識別やプロジェクトとの関係づけに必要な最低限の項目であり，項目決定に際し，米国のアーカイブズ記述標準 DACS が定める必須項目や建築分野で作成されたアーカイブズ目録の事例を参考にした[*6]。

「タイトル」は記述が難しい項目である。その理由は，アーキビストだけで完結できない工程（記録の読解）が生じるためである。増田資料では，難しいケースを明確にするため，記録を三つに分類した［表 2］。

まず，アイテムに記載されている建築プロジェクト名等がフォルダ内で共通する場合，その文字列を原則として編集せずに記述する（タイプ A)。図面ケースやアルバム（サブシリーズ 2-2，3-2，4-2，5-1）の背等に文字

表 2：タイトル記述の方針（容器リスト 960 件）

| タイプ | 記録の文字列 | プロジェクトとの関係 | タイトル | 件数（割合） |
|---|---|---|---|---|
| A | ● | - | 記録に記載された文字列（編集せず，そのまま） | 484（50.4%） |
| B | × | ● | ［プロジェクト名］ | 431（44.9%） |
| C | × | × | ［任意の文字列］，［図面］［写真］等 | 45（4.7%） |

の記載がある場合も同様とする。

タイプ A の文字列がない場合は，記録に関係するプロジェクトを推測し，角括弧内にその名称を記述する（タイプ B）。その際，目録内でプロジェクトの表記を統一するため，索引（後述）からプロジェクト名を引用する。

タイプ A に該当せず，タイプ B のプロジェクトとの関係もないフォルダには，任意のタイトルを角括弧内に記述する（タイプ C）。適切なフォルダ名を付けにくい場合は，［図面］［写真］のようなタイトルとする。

## プロジェクト索引の作成

プロジェクト索引があれば，建築プロジェクト名から記録を探すことができる。索引の作成では，まず索引項目を定める必要があり，項目の網羅性とプロジェクト名の正確性が索引の検索性能を左右する。理想は現用の「プロジェクト・リスト project lists」を参照することだが[*7]，増田資料には該当記録がなく，出版物の作品リストで代用した。しかし，出版物掲載のプロジェクトは限定的で，索引に求める網羅性を満たさなかった。プロジェクト名の一貫性にも課題が残った。

2017 年から 3 年計画で開始した本事業は，2020 年以降の新型コロナウイルス感染拡大により計画変更を余儀なくされた。ところが，増田資料を用いた展覧会（2021 年）[*8] と作品集（2023 年）[*9] が目録公開に先行したことで，主要なプロジェクト情報（正式名，所在地，竣工年等）が確定し，索引作成は思わぬかたちで進んだ。

目録公開時には 181 件のプロジェクト索引を用意できた。その内訳は，作品集巻末の「増田友也研究室作品リスト」に掲載された 100 件（分割統合の調整後）と，増田資料から明らかになった 81 件である。前者 100 件のうち目次掲載分 52 件は，目録の冒頭に索引として名称を列挙した。さらに全プロジェクト 181 件の「プロジェクト番号 _ プロジェクト名」を，フォルダとアイテムの「範囲と内容」に記述し，各プロジェクトの関連記録を検索結果としてまとめて表示させた。

## 実務で生じた課題

容器リスト 960 件（タイプ A ～ C）の内訳は，A：484 件，B：431 件，C：45 件である。このうちあわせて約半数を占める B と C では，タイトルの記述に専門知識に基づく判断が求められた。タイプ B は記録とプロジェクトの関係推測，タイプ C は任意のタイトル付与が必要となるためである。いずれもアーキビストが単独で進めにくい作業であり，本事業では建築学専攻の教員らがタイプ B と C のタイトル作成を担当した。

作品集の刊行で索引作成の工程を短縮できたものの，索引でも記録とプロジェクトの関係づけが必要となり，多くの労力を費やした。本来，前稿の最後に触れた「ダブル階層記述」により，プロジェクト情報を詳しく記述すれば目録の利便性は高まるが，とくに作品集未掲載のプロジェクト（81 件）は詳細不明な点が多いため，今回は名称と竣工年（目録に並べた 52 件のみ）にとどめた。

## 他分野への応用

索引はアーカイブズの分野を問わず，目録の利便性を高める。他分野の事例として，KURRA が同じ 2024 年に公開した植物遺伝学に関する「田中正武研究資料，1929–1997」の目録でも索引を作成した[*10]。ここでは学術探検を索引項目としており，増田資料と異なり各フォルダの「範囲と内容」にプロジェクト名は記述せず，「BMUK」「BEC」「ECAUK」等の探検名（略称）でフォルダ名を文字列検索した結果ページへと利用者を誘導する。探検と関係ないフォルダが 1 件表示されているが，その旨（文字列の検索結果であること）を指摘することで利用者に理解を求めて公開した。

（総合博物館 特定助教　齋藤 歩）

＊ 1：齋藤歩「アーカイブズの整理技法に関するノート（1）――容器リストと索引」，『京都大学総合博物館ニュースレター』No. 46, 2019 年 , 10–11 頁 .

＊ 2：「増田友也建築設計関係資料 , 1930–1984（主年代 1950–1981）」, 京都大学研究資源アーカイブ . URL: https://www.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/archives/1666/ (accessed 2025-06-19).

＊ 3：Kelcy Shepherd and Waverly Lowell, *Standard Series for Architecture and Landscape Design Records: A Tool for the Arrangement and Description of Archival Collections*. Environmental Design Archives, University of California, Berkeley, 2000.

＊ 4：Kathleen D. Roe, *Arranging and Describing Archives and Manuscripts*. Society of American Archivists, 2005, p. 61.

＊ 5：Tawny Ryan Nelb, *The Yamasaki Collection Archives of Michigan Needs Assessment Analysis Report*. Nelb Archival Consulting, Inc., 2010, p. 59.

＊ 6：*Describing Archives: A Content Standard (DACS)*, Second Edition. Society of American Archivists, 2013 (revised March 2015), pp. 10–11.

＊ 7：Nelb, *op. cit.*, p. 61; Waverly Lowell and Tawny Ryan Nelb, *Architectural Records: Managing Design and Construction Records*. Society of American Archivists, 2006, p. 105 (Note 22).

＊ 8：京都大学総合博物館 2021 年度企画展「増田友也の建築世界――アーカイブズにみる思索の軌跡」. 京都大学総合博物館 , 2021 年 10 月 27 日 –12 月 12 日 .

＊ 9：『増田友也の建築世界』. 英明企画編集 , 2023 年 .

＊ 10：「田中正武研究資料 , 1929–1997」, 京都大学研究資源アーカイブ . URL: https://www.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/archives/3450/ (accessed 2025-06-19).

# 総合博物館日誌（2025年3～6月）

## 展示

▶特別展「文化財発掘XI　吉田遺産探訪－遺跡・古図・剣鉾－」
2025年3月19日（水）～5月11日（日）
［関連講演会］　総合博物館講演室／セミナー室（映像配信・サテライト会場）
＊対面形式での開催
第1回　2025年4月19日（土）
伊藤淳史（京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター）
「発掘調査の成果と吉田村古図の世界」
上杉和央（京都府立大学文学部歴史学科）
「地図と景観から読み解く吉田の歴史地理」
第2回　2025年4月26日（土）
福持昌之（京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課）
「剣鉾研究の歩みと『吉田木瓜大明神の剣鉾差し』」
内田好昭（粟田剣鉾奉賛会・元京都市考古資料館）
「鴨東の剣鉾について－または、祭の現在」

## 子ども博物館（活動報告）

実施回数：15回
参加者数：子ども216人／中高生12人／大人252人
スタッフ（のべ）：53人
館外での活動等：2025年5月6日（火・振休）
青空子ども博物館in円山（京都 円山公園音楽堂）

## レクチャーシリーズ

▶第165回　2025年4月12日（土）
川や海の水から生き物発見！環境DNAで探る水辺の生物多様性
辻 冴月（京都大学大学院情報学研究科）

## 博物館セミナー

＊対面とオンラインによるハイブリッド開催
▶第135回　2025年6月13日（金）
小型底生魚類の分類・系統学的研究
藤原恭司（京都大学総合博物館）

## 協力イベント等

▶天皇盃第36回全国車いす駅伝競走大会
2025年3月9日（日）

## 展示協力（学術標本資料の貸出）

▶山梨県立博物館（3点）「開館20周年記念特別展 武田勝頼－日本に隠れなき弓取」
2025年3月15日（土）～5月6日（火）
▶奈良県立橿原考古学研究所附属博物館（2点）「令和7年度春季特別展 王陵 桜井茶臼山古墳」
2025年4月19日（土）～6月15日（日）

## 総合博物館の刊行物

『京都大学総合博物館収蔵資料目録第9号「楔形文字粘土板」（修正第2刷）』
2025年3月21日発行

## 入館者数

8,097人（うち特別観覧　23団体，774人）

京都大学総合博物館ニュースレター　ISSN 2758-0784
第64号　2025年9月5日 発行
編集・発行：京都大学総合博物館
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
電話：075-753-3272　FAX：075-753-3277
E-mail info@inet.museum.kyoto-u.ac.jp
https://www.museum.kyoto-u.ac.jp/
＊ニュースレターは，京都大学学術情報リポジトリ KURENAI でも公開しております。